

・予防、また病気が多発し

可能性が高く、出荷後の袋内 で病斑が発生したりすること

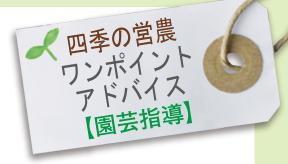
が見えなくても蔓延している 度発生すると、他の株に病斑 やすく、空気伝染します。一 す。高い湿度の条件で発生し とネズミ色のカビが見られま

た場合などは、土壌消毒剤

有機質肥料を施用し腐植の 多い土作りをしましょう。

しましょう。

### うれん草の主な病気と 対策について 【指導員】 園芸課 菅原 大



策をしっかりおこない、 かかりやすい病気とその対策について紹介します。予防と対 高品質なほうれん草を作りましょう。

今回は、

管内でハウス栽培がメインであるほうれん草が、

### **萎凋病 (フザリウム菌)** 【主な病気・対策

(クロールピクリン・バス

というカビの一種で土壌病害 す。連作による菌密度の増加 も発生しやすい傾向にありま に発生しやすく、酸性土壌で は27~28℃と、夏場の高温期 cm頃から収穫期にかけて発病 です。本葉4~6枚、草丈10 しまうと翌年も再発します。 き続けるので、一度発生して します。菌は土壌で長期間生 や土壌条件により被害が拡大 終的に枯死します。発病適温 んできます。病気が進むと最 し、下葉が黄化し、衰え、萎 発生の原因はフザリウム菌

> 極端な乾燥、 しょう。 排水の良い畑作りをしま アミド)を使用しましょう。 多湿は避け、

▼使用した農機具をよく水洗 染が予防できます。 いすることで他の畑への感

▼極端な酸性土壌の場合は、 苦土石灰などを施用し、p H6・0~6・5に改善しま

# 立枯病(ピシウム菌)

べと病(糸状菌)

最初は、葉表の色が不規則

菌は土壌にいます。また、株 雨や秋雨の時期には特に注意 害です。葉の黄化、株部分の が必要です。萎凋病と同様に す。菌は多湿を好むため、梅 での生育初期に多く発生しま 発芽直後から本葉展開期頃ま どの症状がみられます。主に 褐色化、茎のくびれや腐敗な クトニア菌などによる土壌病 こちらもピシウム菌やリゾ 根腐病など症状が類似

▼消毒をした加工種子の利用

や耐病性のある品種選定を

した病気も多数存在します。

## 予防と対策

- ▼萎凋病と同様に土壌消毒、 または太陽熱消毒で被害を 軽減できます。
- 薬剤防除として、タチガレ があります。 土壌混和)根腐病にも効果 ン粉剤(播種3日前~直前

▲葉裏に発生した病斑



萎凋病に侵されたほうれん草

予防と対策 抵抗性を考慮した品種選定 をしましょう。

ハウス内の換気をおこない

- \*厚播きをすると株が密集湿度を低下させましょう。 けましょう。 し、湿度が上昇するので避
- 薬剤散布(レーバスフロア ブルなど)による治療が可 能です。

る「まだら症」と見間違う場 栄養分の過不足により生じ に抜けてきます。一見すると

合もありますが、葉裏を見る

使いましょう。 されている使用上の注意をよ す。使用の際はラベルに記載 く読み、用法を守って正しく 今回紹介した薬剤は一例で

もあります。

